

## (2) 参加児童の変容

ここでは、ある参加者の行動やふりかえりの記述に注目して、その変容をとらえます。

## 対象児童:A (小学生・男子)

## 事前キャンプ

- 行動：オリエンテーションおよび事前説明会で、説明を集中して聞くことが難しい様子で、机に伏したり、目をつぶったりしている様子が見られた。
- 保護者との面談：**落ち着きがなく、興味がないことに集中できない**、との情報が得られた。



## 本キャンプ

## 1日目

- Aのふりかえり：感想に「すごく楽しかったけどすごくつかれた」、明日のめあてに「山をおもいっきり楽しむ」と記述があった。

## 2日目 鍋割山・荒山高原

- 行動①：登山開始直後からすぐに班の最後尾を歩く。数分後には班のメンバーに荷物をすべて持ってもらって歩くようになる。その状態で15分程度歩いたところで班付き指導者からグループ全体に問いかけがなされ、5分程度班で話し合ったのち、Aも自身の荷物を持って再度歩き始める。
- 行動②：鍋割山頂上付近で班から遅れて歩くようになる。頂上では先に到着した仲間がAの到着を待っており、到着した際にハイタッチで迎えた。
- Aのふりかえり：〈挑戦〉に「鍋わり山の全て」、〈協力〉に「いきぎれしたときにうしろのかたがたがおうえんしてくれたこと」、感想に「すごくつかれた。そして、たっせいかんがある」と記述があった。
- All for Oneカード：Aに向けて「足がいたい。でも、応援して」と言っていたこと(良かった)」という記述があった。
- 班付き指導者のふりかえり：登りの山で体力的にも精神的にもキツイ子供に対して寄りそい、話を聞き、うまく本音を聞き出せた。

## 3日目 掃部ヶ岳・榛名富士

- 行動：前日の遅れを考慮し、Aの班が全体の先頭として、さらにAは班の先頭で歩く隊列となった。この日は班から遅れることなく歩き、全体の先頭のままゴールまで歩き切った。また、積極的に「ファイトー！」といった声を出していた。
- Aのふりかえり：感想に「すごく速くゴールできてうれしいです」、明日のめあてに「ちょっと休みたい。テントをうまくはりたい」と記述があった。
- All for Oneカード：Aに向けて「先頭をきって、がんばっていたこと(良かった)」と記述があった。
- 班付き指導者のふりかえり：前日登り坂に苦労していた子を、班の子供たち全員で声をかける雰囲気作りを行い、実践できた。登りに苦労していた子自身にやる気があったから、それに呼応するように雰囲気よくなった。

## 4日目

- Aのふりかえり：明日のめあてに「山を先頭きってがんばる！」と記述があった。

## 5日目 鈴ヶ岳・地藏岳・長七郎山

- 行動：Aの班は全体の先頭ではなかったものの、引き続きAは班の先頭で歩く隊列となった。この日は難易度が高い行程であり、ところどころ苦しみ様子が見られたが、そのたびにみずからかけ声を発し、最終的に遅れることなくゴールまでたどりついた。

## 5日目(つづき)

- Aのふりかえり：〈発見〉に「山を登った時の息のあがりをはじめたとき『ファイトーいっばつ』を言うと気持ちがいい」、明日のめあてに「黒檜山をチャレンジしたい！」と記述があった。また、班付き指導者からのフィードバックとして「まずチャレンジしたいと思える気持ちが大事。Aの成長を感じます。Aならできる」と記述があった。
- All for Oneカード：Aに向けて「大きな声を出し、みんなのふんいきをもりあげた(良かった)」と記述があった。

## 6日目 黒檜山・駒ヶ岳

- Aのふりかえり：感想に「赤城山の全部の山をせいはできて、よかったです」と記述があった。
- All for Oneカード：Aに向けて「Aのかけごえでみんなが一つにまとまっていったと思いました」と記述があった。

## 7日目

- Aのふりかえり：明日のめあてに「みんなお別れだけど暗いかおをしない」と記述があった。
- キャンプのまとめ：「みんなで声をかけあったり、協力すれば何でもできる」、「学校でもつらい事があつたら、みんなと同じように協力するためにきずなを深めたい」と記述があった。

## 1か月後アンケートの記述

- 保護者より：以前のAなら面倒な事、つらい時など途中で「つらい!!」「つかれた!!」など愚痴をこぼす子でしたが、キャンプに参加してからは進んでやり愚痴も口にしなくなったように感じます。限界突破キャンプがとても楽しかったようで、来年も参加したいと言っています。みんなと協力してはげましながら登る山は楽しいそうです。チャレンジする気持ちは以前より大きくなったようです。

## 考察

キャンプ、特に登山活動を通して、またスタッフの声かけや仲間とのコミュニケーションを通して「挑戦・協力・発見」の体験を積み重ね、前向きで積極的な言動がみられるようになった事例である。

Aは、保護者面談や1か月後アンケート、事前キャンプの様子にもあるように、気分が乗らないことに対して後ろ向きな言動をする傾向があった。

本キャンプにおいては「山を楽しむ」ことが動機となっていたが、2日目に迎えた実際の登山では本人が考えていたより負荷が高かったためか、後ろ向きな行動をとってしまう。そこで班付き指導者の促しにより班員同士が話しあい、Aが自分の気持ちを伝えられたことが、他の班員からの声かけにつながった。鍋割山頂上到着の際の班員の出迎えもあり、大きな達成感を得られたことがうかがえる。

3日目以降は班の先頭でかけ声をしながら登山に取り組み、その行動は班員からも認められるようになった。さらに5日目からは自分が苦しい時に声かけをすることが重要だと考えるようになっていく。

このようなキャンプでの経験をもとに、7日目に行ったキャンプのまとめでは「みんなで声をかけあったり、協力すれば何でもできる」と考えるようになっていく。保護者の1か月後アンケートからは、そのような前向きな言動がキャンプ後も継続されていることがうかがえる。